

入門マクロ経済学Ⅰ

科目ナンバリング ECT-103
選択必修 2単位

浅川 あや子

1. 授業の概要(ねらい)

本講義では、私たちの日常生活に密接な関わりのある経済活動について、基礎的なマクロ経済学の知識を用いて理解を深めることを目的としています。経済成長や価格の役割、GDPの概念、政府の金融政策や財政政策などを学ぶことによって、今日の日本経済の現状理解に努めます。

2. 授業の到達目標

- (1) GDPの概念、経済成長や価格の役割、失業、インフレーションなど、マクロ経済学の基礎的な概念を習得する。
- (2) 習得した基礎的な概念を用いて、経済関連のニュースを人に説明できるようにする。

3. 成績評価の方法および基準

授業内試験80%、小レポート5%、授業への貢献度15%(授業中の受講姿勢を含む)

4. 教科書・参考文献

参考文献

小塩隆士 高校生のための経済学入門 ちくま新書、筑摩書房、2002年
伊東元重 はじめての経済学(上)(下) 日経文庫、日本経済新聞出版社、2004年
野口旭 ゼロからわかる経済の基本 講談社現代新書、講談社、2002年
関谷喜三郎、安田武彦、大木良子 はじめて学ぶ経済学 第2版 慶應義塾大学出版会、2014年

5. 準備学修の内容

・講義前に参考文献の関連箇所を読んで疑問点を書き出すなど、準備をしてください。
・講義では、内容の要点をまとめたプリントを配布します。授業を受けた後では、プリントや自分のノートを見返し、その日の復習をおこなってください。

6. その他履修上の注意事項

- (1) 入門マクロ経済学の体系的理解のため、「入門マクロ経済学Ⅰ」と「入門マクロ経済学Ⅱ」の連続履修を推奨します。
- (2) 講義中の私語等、他の受講生の妨げとなる行為があった場合には、退出指示や成績評価における大幅減点、もしくは不合格とする場合があります。

7. 授業内容

- 【第1回】 授業案内(授業の目的、進め方、成績評価の方法)
- 【第2回】 市場と経済主体—家計と企業—
- 【第3回】 経済システム—資本主義市場経済と社会主義計画経済—
- 【第4回】 価格の役割
- 【第5回】 GDPで捉える経済成長
- 【第6回】 物価と経済の関係
- 【第7回】 経済循環とマクロ経済
- 【第8回】 失業とインフレーション—フィリップス曲線とは—
- 【第9回】 金融政策と日本銀行の役割
- 【第10回】 財政政策と政府の役割
- 【第11回】 経済のグローバル化と国際貿易—為替レートの変動とその影響—
- 【第12回】 現代経済の課題—所得格差と貧困—
- 【第13回】 マクロ経済の視点から考える(1)石油ショックと変動相場制—1973年—
- 【第14回】 マクロ経済の視点から考える(2)レーガノミクスからブラザ合意まで—1980年から1985年—
- 【第15回】 授業のまとめと試験